



石川県 金沢市消防局
消防局長 宮本 健一



伝統と創造のまち 金沢

金沢市は、県の中央よりやや南寄りに位置し、東は白山山系、砺波丘陵をはさんで富山県小矢部市・南砺市に接しており、西は日本海に面し、北は内灘町・津幡町、南は白山市・野々市町と境を接しています。

本市は、平野に細長く突き出た三つの台地（卯辰山丘陵地、小立野台地、寺町台地）と、その間を流れる犀川、浅野川の二大清流を有し、自然環境にめぐまれた地形にあります。



金沢の町は、小立野台地の先端に築城された前田家加賀百万石の居城金沢城や日本三大名園の1つとして「宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望」の六勝を兼ねそなえた有名な兼六園を中心に、その外側に寺院群が配置され、各地から招き入れられた美術工芸家などの職人が居住する町家などが四方に広がった城下町です。

金沢市は、幸いにして400年余にわたり戦禍にまみえることがなかったこともあり、旧市街地を中心に、土堀と石畳が連なる昔ながらの武家屋敷群や国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている東茶屋街など藩政期の風情を今に残す貴重な町並みがそこに点在し、金沢独特の情緒を醸し出しています。



ライトアップされた東茶屋街

本市では、このように貴重な文化的財産を大切にしながら伝統環境を磨き高め、独自の学術・文化の創造を進め、より活力ある「世界都市金沢」の実現を目指しています。

当消防局は、市内に4課4署8出張所を配し、413人の消防職員で組織され、3団49分団1,117人の消防団員とともに市民の生命、身体、財産を守っています。

加賀火消しの伝統を受け継ぐ本市の消防団員は、災害現場での勇猛果敢な活動はもとより、「加賀鳶はしご登り」の伝統保存にも力を注いでおり、平成7年には金沢市の無形民俗文化財に指定され、毎年1月の出初式や6月上旬に開催される百万石まつりなどで、勇壮な演技を披露し、多くの観客から喝采を得ています。

金沢市では、住宅からの火災による被害を最小限に止めるため、既存の一般住宅への住宅用火災警報器の設置期限を平成20年5月末



加賀鳶はしご登り

までとし、その設置を促進するため、全国に先駆け平成16年に金沢市住宅防火対策推進ネットワークを立ち上げ、積極的な活動を展開しています。その結果、本市の婦人（女性）防火クラブ協議会の自主的な活動として、近々に市内各世帯への住宅用火災警報器の周旋活動がスタートすることとなりました。当消防局としても、今後、この成果に大きな期待を寄せているところであります。

また、一方で大規模な自然災害をはじめ、一つの自治体のみでは対応が困難な災害が全国各地で頻発していることを踏まえ、18年8月27日



金沢市・内灘町合同市民震災訓練

に「高めよう 地域の防災力」をスローガンに近隣の内灘町とも連携して、市民震災訓練を実施し、災害時の市域を超えた共助のあり方について、地域住民相互で確認し合いました。

おわりに

消防を取り巻く環境が大きく変化する中、住民と協働して、より一層安心して安全に暮らせるまちづくりを目指し、職団員一丸となって精進してまいります。